

現在、津山郷土博物館で津山藩の狩野派絵師、狩野洞学の特別展が開催されています。

江戸時代の大名家では狩野派の絵師を抱えることが通例となっていました。ところが津山藩松平家は、越後高田藩松平家の時代に一度領地を失っており、元禄11年（1698）宣富の代になって、美作国津山城を与えられて10万石の大名として復活します。そのため江戸時代中期になって、絵師を新たに抱えるところから出発しなければならいませんでした。そこに登場するのが、津山藩松平家お抱え絵師、狩野派の祖とされる狩野洞学幸信です。

歴史上の著名な絵師の系譜を記録した『古画備考』という本で狩野門人譜を見ると、洞学の属する狩野家は、もともと津山の松平家とは深いつながりがありました。

洞学の祖父、狩野照政は織田家の出身で越後高田藩主松平光長に仕えていたのですが、延宝4年（1676）に亡くなります。洞学の父、洞晴も光長に仕えるのですが、光長がいわゆる越後騒動によって流刑となった延宝9年（1681）に浪人となってしまいます。浪人となった洞晴は江戸に住んでいましたが、長府藩主毛利綱元に仕えたのち、元禄8年（1695）に江戸で亡くなりました。洞学は、家督を相続して毛利綱元に仕えることもできたと思われるのですが、「所存がある」として毛利家には仕えませんでした。

そして、享保5年（1720）に津山藩主松平宣富に召し抱えられたのですが、先の『古画備考』ではその理由として「先祖之儀」をあげてい

津山城百聞録

津山藩狩野派の祖 ～狩野洞学～

大黒天図



特別展 津山藩狩野派絵師 — 狩野洞学 —

会期 11月5日（日）まで

ところ 津山郷土博物館 22-4567

開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

休館日 月曜日、祝日の翌日

ます。浪人中の洞学については、幕府御殿の仕事をしていたらしいというだけで詳細はわかりません。しかし、洞学は優れた絵師として知られていたという記録もあることから、先代からの由緒を考慮して召し抱えられたものと思われるます。享保5年4月14日、江戸の津山藩邸に呼び出された洞学は、米十人扶持と金十両を与えられて、勘定奉行配下の大役人格として召し抱えられることになりました。そのときの江戸日記の記載では、職務が絵師かどうか定かではありませんが、その後の活動からすれば、絵師であったことに間違いありません。

召し抱えられた洞学は、直ちに津山への引越しを命ぜられています。その当時、洞学には年老いた母と妻、そして2人の娘がいました。これら家族に下女や役介人を加えた洞学一行は、8月28日に江戸を出発して津山へと向かったのです。

つやま 10月



編集・発行（毎月10日発行）

津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111（代） ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



兵庫国体が閉幕しました。今年から夏季、秋季大会が同時開催になったので、あっという間に終わった感じです。昨年の今ごろは岡山国体を担当し、忙しい毎日でした。民泊協会をはじめ、関係者のみなさんお世話になりました。（元）



都会にはない「作州色の空」。来春上映の映画「バッテリー」の作者あさのあつこさんが、津山市出身の作家重松清さんらと対談したときの言葉。良い表現だなあと共感しました。たまには真っ赤に染まる秋空を見上げてみては…（X）



つ・ぶ・や・き

編集室

「まちプロマン」に引き続き、新しいキャラクターが誕生しました。「行革王子」といいます。行革の使命を担っているの、王子ですが衣装はフリフリではなく控えめです。まちプロマン同様よろしくお願ひします。（e）



8月中のひとの動き

人口 111,113人（前月比△22）

男 53,024人（同△14）

女 58,089人（同△8）

世帯 43,436世帯（同+20）

転入 255人 転出 290人

出生 100人 死亡 87人

（9月1日現在）



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

